

TYPE OF INDUSTRY

### 健康経営とSDGs 対応を加速させよう 上

世界にまん延する新型コロナウイルスの脅威にさらされ、中小企業や地方は体力を削られこれからの対応もままならない状況だ。こんな時は、新型コロナウイルス収束後のV字回復、将来に向けた布石を打つ時だと考えたい。

中小企業は、大企業から後れを取っている健康経営や国連の持続可能な開発目標(SDGs)対応に目を向け、今こそ実践すべきだ。健康経営や

## 中小・ベンチャー・中小政策

る。社員の体調や持病を把握し未然予防や防止につなげる体制をまずは整え、特に突然死を起こさないことに注力すべきだ。突然死は主に心疾患から引き起こされる。

厚生労働省の「2010年の人口動態統計(確定数)」によると、心臓系の病気がんに次ぐ日本での死因の2位であり年間約20万人以上になる。そのうち心臓突然死が年間約7万人で、1日200人が亡くなっている。

を大きく左右されるにもかかわらず、心臓に対する意識が低い。よほど自分で心臓が痛いとか症状が出る場合以外は、測定結果にも異常が出にくいものだ。

で、診断時間を入れても数分しかからない。測定時間を使って仲間同士のコミュニケーションが生まれれば、互いに体調を気遣うことにもつながる。

### 経営士の提言

企業対応としては、数種類がそろってきた携帯型心電計による心電図測定を社内浸透させることを勧めたい。健康診断だけでは病魔を捉えることは難しい上、各個人の生活習慣によりその状態だ。測定時間は30秒程度。この活動は、SDGsの3.dの「健康危険因子の早期警告、危険因子緩和及び危険因子管理のための能力強化」に対応することになり、社員を守ることで健康経営とSDGs対応につながっていく。

業績回復、社員の健康から 携帯型心電計普及で突然死防ぐ